

料金後納

ゆうメール

一幸建設は昭和53年の設立以来、三河エリアで地域密着の建築と不動産に携わる会社です。本来ならば直接ご挨拶申し上げるべきところ不躰ではございますが、私どもの会社を知っていただきたいとの想いから、一度でも名刺交換などご縁を賜りました方に、ニュースレターを送付しております。『みんなの幸せをカタチにする』仕事を通じて関わる全ての人との幸せと社員の日々成長と自己実現を糧に、地域の皆様に必要とされるお役立ち企業を目指しております。東三河での建築と不動産に関することでしたら、小さなことでもお気軽にご相談ください。



地域の安全なくして、地域企業の繁栄なし

■そのとき、地域の企業に何ができるだろう。

このたびの熊本地震および千葉豪雨により被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と、平穏な日々が戻ることを願っております。

災害は企業に「事業をどう守るか」だけでなく、「従業員やその家族、地域のために何ができるか」を問います。国内企業の99.7%を占め、働く人の約7割を支える中小企業。その事務所・店舗・倉庫・工場は、地域の各所に点在しています。

平時から備えを整え、行政や地域と役割を共有しておくことで、災害時には電源・通信・物資・一時的な受入れなど、地域を支える拠点となる可能性があります。以前、市の防災担当者と地域防災を考えた際、当社は「地域の安全なくして地域企業の繁栄なし」と提起しました。被災地が困難な状況にある今だからこそ、自社の備えと地域で担える役割を改めて見つめ直す必要があると考えます。

■もし明日、災害が発生したらー？

- 社員や家族の安否を、どのように確認するか
- 最低限必要な業務を、どう継続するか
- 停電時に使える電源や通信手段はあるか
- 水・トイレ・照明・充電環境を確保できるか
- 地域や行政と、どのように連携するか

安全確認・情報収集・電源と物資・地域連携



◇まずは、自社の「できること」と「足りないこと」を知るところから。

建物の省エネ化と、太陽光発電・蓄電池・非常用電源などを組み合わせることは、事業継続と地域防災の両面から有効な備えとなります。

地域の事業所を、地域防災の拠点として見直すポイント

省エネ・創エネ・蓄エネを、BCP と地域支援

1 屋根・太陽光発電

屋根の耐力・防水・劣化を確認し、平時の省エネと停電時に必要な電力の確保へ。

2 外皮・開口部の断熱

冷暖房負荷を抑え、限られた電力でも過ごしやすい室内環境を維持。

3 水・物資の備蓄

飲料水・簡易トイレ・衛生用品などを保管し、社員と地域の初動を支える。



◇災害時に目指す、地域企業の3つの役割

4 蓄電池・電気自動車・非常用回路

蓄電池や電気自動車(EV)の蓄電機能を活かし、停電時に必要な照明・通信・充電へ電力を供給できる構成を検討。

5 通信・情報の確保

ラジオ・無線・通信機器と、安否確認・情報共有のルールを平時から準備。

6 一時的な受入れ・地域連携

行政・近隣と役割を共有し、休憩・充電・物資提供など、可能な支援を考える。

電力供給の拠点

照明・通信・充電を維持

地域の支援拠点

受入れ・物資・情報連携

BCP と早期復旧

事業継続から地域経済の早期復活

※ZEB 化だけで停電時の電力が確保されるわけではありません。自立運転・蓄電・非常用回路と運用計画を一体で考えることが重要です。

地元密着東三河での不動産と建築のことなら小さなことでもお気軽にご相談下さい！

※ニュースレターがご不要な場合はお手数ですが 0532-46-9336 まで

豊橋工科高校インターンシップを実施しました

今年も豊橋工科高校の生徒さんを迎え、インターンシップを実施しました。今回は4名の生徒さんが参加し、そのうち2名は女性でした。参加した生徒さんは現場での仕事に興味を持っており、中には「将来は大工になりたい」という希望を先生に伝えたところ、一幸建設を紹介していただいたという生徒さんも。

建設業に興味を持ち、実際の仕事を体験する場として当社を選んでもらったことを、うれしく思います。

<実際の現場で建設の仕事を体験>

インターンシップでは、見学だけでなく、実際に手を動かしながら建設の仕事に触れてもらいました。

部材の塗装をしたり、ネジ打ちに挑戦したり、実際に現場で使われる石膏ボードを運んでみたり。

現場では、当社の先輩社員から仕事について話を聞いたり、職人さんに直接質問したりする機会もありました。

普段何気なく目に見えている建物が、どのような人たちの手によって、どのようにつくられていくのか。実際の現場に入ったからこそ、感じられたこともあったのではないのでしょうか。

営業部 新入社員の紹介

このたび営業部に配属となりました中原光臣(なかはら てるお)と申します。お客様の大切な資産である土地や建物に関わる仕事を担当させていただくことになりました。

不動産や不動産に直結する相続や税務などは分からないことも多く、「誰に相談したらいいの?」という場面もあるかと思えます。そのようなのでお悩みにこれまでの経験を活かして誠心誠意の対応をさせていただきます。少しでもお悩みの方はお気軽にお声掛けください。



よろしくお願いいたします。

営業部課長 中原光臣



参加した生徒の声

「大工になることが夢です。現場で働く皆さんが、協調性を大切にし、コミュニケーションを取りながら働く姿が勉強になりました。」

「現場ではコミュニケーションが多く、とても明るい会社だと思いました。大変な仕事ですが、完成したときの達成感ややりがいを感じられる仕事だと思いました。」

一幸建設 ZEB化ショールームの現在地と今後の取り組み

既存建築物改修による“100% ZEB (完全たるゼロエネルギービル)” 達成に向け、段階的な実証・検証を継続



現在地



2024年
5月竣工



削減率
65%



現在の達成段階:
ZEB Ready



建物完成後も、更なる改善と投資の検討を継続しています。

一幸建設のZEB化ショールームは、既存建築物を活かした改修によってZEB化を進める実証拠点です。完成時点では削減率65%・ZEB Readyに到達しましたが、ここをゴールとはせず、更なる省エネ・創エネ・BCP強化に組み込み、完全たるゼロエネルギービルの達成に向けて技術を磨いています。

今後の取り組み

① 省エネ深化



電気設備・空調設備の
改善を継続検討

運用改善と高効率化で、
さらなる消費エネルギー削減へ

② 創エネ強化



太陽光パネルの増設・
高性能パネル導入を検討

創る電力を増やし、
エネルギー自給力を高めます

③ BCP対策強化



電気自動車の導入や
蓄電池活用を検討

災害時にも事業継続を支える
エネルギー基盤へ

④ 実証・検証の継続



既存建築物改修による
100% ZEB達成へ

段階的な投資と検証を重ね、
技術を磨き続けます

一幸建設が目指す事業領域



建築



不動産



エネルギー

地域の顧客に対して、建築・不動産・エネルギーを通じた
資産価値向上と、安心できるくらし・事業環境を提供します。
地域の建物・土地・エネルギー課題にコミットできる企業へ。



ZEB化ショールームを実証拠点として、地域の未来に役立つ技術と提案力を高めてまいります。

常時見学可能！お気軽にお問い合わせください。



0120-150-564